

「 さ さ え 」

2011 年 10 月発行 情報誌 第37号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

【商品名】 床ずれ防止用ハイブリッドマットレス

「アルファプラ ソラ」

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めていました。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化します。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者の QOL などを総合的に考慮したマットレスをお選びください。アルファプラ ソラは安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい…」

ボランティア活動の盛んな国とそうでない国

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田謙二(熊本学園大学教授・博士)

8月20日にドイツに向けて出発、一時帰国して、再び中国に向けて出帆。帰国は9月11日、慌ただしく長い夏の旅が終わった。ドイツでは認知症ケアや改正介護保険に関する現地調査、中国では南京師範大学における社会福祉の講義が私の責務であった。そして帰国後の今、全国的な「学校給食」のアンケート調査を終えて、その調査結果を基に原稿執筆の準備に取り掛かった。社会福祉といえども、その範囲や内容は実に多様である。それは当然のことであり、社会福祉が生活に関わる実践・学問である限り、その守備範囲は広い。

ドイツ・中国・日本、というように走り抜けて、さて「社会福祉」とは何か、と自問する必要に迫られている。ボランティア活動が注目されている。阪神淡路大震災において多くの人が、被災地に駆けつけ、生活の再建・再生のお手伝いに参加した。その活動の意義を称揚しつつ、周知のように、「特定非営利法人促進法(=いわゆるNPO法)」が1998年に施行された。2011年3月11日の東日本大震災の救済と復興においても、ボランティア活動への期待が高まっている。

ボランティア活動は、市民社会と近代国家の成立以降において、市民的活動という「民間」の一領域を示す実践であり、NPO など法人の非営利活動がそこに含まれる。それは市民革命と産業革命の歴史的経験を経た、19世紀半ば以降での、つまりヨーロッパの近代史上での特性である。それはまた、中世都市における教会や修道院での援助活動とは区分される活動である。したがって、今日のボランティア活動は、国家および市場経済に対する対抗力、いわば両者の狭間で市民的活動力として評価されるべきことなのである。

ボランティア活動は、自主性・自律性・無償性を特徴とする。つまり、平たく言い換えれば、自分の意思で、誰にも強制されず、そして報酬を望まない公共的・社会的な実践である。だから「有償ボランティア」というのは形容矛盾であり、報酬が保障されるのであれば、臨時雇用(ないしはアルバイト)の表現が適切といえる。たとえば、阿蘇地方の住人には、無償での野焼きという共同作業があるが、もし参加できなければ金銭によって償う必要がある。作業への参加が無償であれ、その不参加に罰則(=制裁とも言う)が伴うのであれば、ボランティア活動ではなく、強制作業とみなされるべきである。

ドイツはボランティア活動が盛んな国の一つである。就学期から、就業期、そして年金生活期、その生涯を通じてボランティア活動に参加する。高校時代まで授業は午前で終了、午後は地域のスポーツクラブや芸術クラブなどに通う。クラブは非営利法人(e.V.:登録社団)がボランティアで運営する。学生がボランティア団体に参加することも可能である。高校にも大学にも、いわゆるスポーツや芸術の「サークル」はない。高校や大学は学問の修得の場である、という理由からである。ここに活動・実践としての地域がある。

就業期では、「アジェンダ21」などの環境保全活動、「介護サービスボランティア」、あるいは在宅での死の看取りを支援する「ホスピスボランティア」など、多彩な市民的活動がお互いの生活を支えている。また、「Selbsthilfe」(=ゼルフストヒルヘ)、つまりセルフヘルプ運動も盛んである。たとえば、「ガン患者の会」「アルツハイマー患者の会」を支える活動もボランティアの重要な分野である。就業期にボランティアが可能なのは、仕事が、就業規則通りにきっちり午後5時に終了するからである。

ボランティアというドイツ語が興味深い。「ボランティア的」、とは“Ehrenamtlich”と表現する。直訳すると「名誉職的」である。生活に余裕のある人だから、無償での、社会的な実践、それがボランティア活動である。

生活が豊かであることと、自主的で社会的な活動、その両者は市民的な生活においては一体的なことであって、さらにその個々の活動が社会を常に形成し支えている。労働による社会参加とともに、こうした無数の市民的活動のネットワークがヨーロッパ社会の強靱さの秘密であり市民文化である。

ドイツから東アジアへの旅を終えつつ、そう述懐したのである。

自動採尿システム【尿吸引ロボ ヒューマニー】を上手に使うために

その8 ヒューマニーのフィッティングの課題

NPO福祉用具ネット 事務局 大山 美智江 (看護師・ケアマネージャー・福祉用具プランナー)

私は、このコーナーでヒューマニーという新しい福祉用具をうまく活用するためのヒントになれば、との思いから、これまでに経験した事例や気付いたことなどを紹介してきました。

NO.1 では、「ヒューマニーという新しい製品への期待や活用の意義について」、NO.2では、「床ずれのある方への活用方法の紹介」、NO.3では、「身体条件に応じたヒューマニーの工夫例」、NO.4では、「男性への当て方の工夫」、NO.5では、「排尿チャートを記録するためにヒューマニーを活用し、排泄ケアを見直したことや、ターミナルの尿量把握に活用した事例」、NO.6では、「施設での床ずれ対策として活用して見事に治癒をさせた事例」を紹介し、NO.7では、「福祉用具としてのヒューマニーの認知度について」掲載しました。

2010年の1月からこのコーナーをスタートさせましたがその後、ヒューマニーという新しい福祉用具が、介護の現場に浸透していくようすも間近にみえてきました。つい最近も、使い方の相談を受けてフィッティング指導など介入を行なった結果、上手にヒューマニーを活用できるようになった事例を数例経験いたしました。

ヒューマニーだけでなく、さまざまな福祉用具との関わりの中でいつも感じること、それは、福祉用具は上手に使えば介護の必需品であるという実感です。生活の質が目立って変化していきます。

ヒューマニーもそんな画期的な開発品であることはいうまでもありません。しかし、上手に使いこなすためには、身体状況が百人百様に異なる利用者、そして、さらに用具を使う側、つまり介護者の条件など、その使い方には個々に異なるために、その条件に照らした対応が求められます。現場では、まだまだその使い方など浸透しているとはいえないようです。もちろん、リフトや車いすなど他の福祉用具についても同じことが言えるのですが。

介護保険がスタートして10年以上も経過していますが、リフトもうまく活用できなくて、相変わらず腰痛と闘いながら人を抱える介護を続けています。車いすも姿勢が崩れ、とてもきつい姿勢で長時間座らせられている光景もよく見かけられます。敢えて、座らせられていると書きました。文句をいえない利用者は表情で訴えているのですが、心の叫びを私達はどのくらいキャッチしてあげているのでしょうか？薄い座布団、しかも綿の部分は端の方に片寄っている、そんな車いすに何時間も座り、体動も思うようにでき

ない状態の方に対して、どのくらい気配りのあるケアができていたといえるのでしょうか？

排泄はとても見え難い部分のケアです。オムツの当て方で失敗しても一番困るのは汚染されたものを更衣させたり、シーツを交換し洗濯をする人なのです。もちろん当事者が一番気持ちが悪いのですが、「気持ちが悪いので、しっかりと漏れないようなオムツをあててよ！」と文句が言えません。ましてや、恥ずかしい部分です。人に見せてうまいあて方を教わるといっても嫌です。赤ちゃんのオムツのあて方は男の子、女の子と性別の違いのポイントを妊婦さんへの教育で教えられます。

しかし高齢者のオムツのあて方は性別の違いだけではうまく装着できません。体型の違い、身体の動けない方や関節の可動域の制限のある方、また、男性の場合は性器の長さや排泄習慣などによっても一工夫が必要でとても難しいという事情があります。

そんな中、新しく開発された福祉用具、自動採尿器「ヒューマニー」を紹介されたとしても、最初から簡単にうまく使える訳ないと、つい言いたくなりそうな気持ちになります。これまでさまざまなオムツを使っても、たくさんの失敗をしている人々が、“瞬時に吸引”してくれるので今度こそは漏れないだろうと期待します。しかもオムツ交換も少なくて良いと期待し、ようやくたどり着いた福祉用具という訳です。当然のことですが、これまで困難となっている個々の事情を理解した上で、改めて身体状況や介護者の条件に合わせてのフィッティング技術が求められることになります。

しかし、現在の介護現場で、それぞれの個別の状況を判断し、使えるように指導するのは誰の役割なのか、少し戸惑いを感じます。

新しい福祉用具として、メーカーの主催する勉強会でヒューマニーについてたくさんのことを学んではいるのですが、身体の介護経験のない、ましてや、オムツを販売しても実際に装着に関わることがない福祉用具専門相談員さんがどこまで介入できるか、それよりもヒューマニーの特徴や使い方もよく知らないがオムツの当て方については経験が豊富なヘルパーさんが主となって介入した方が良いのか、と悩みます。

そうなんです。福祉用具は他にも同じようなものがあります。車いすと調整、床ずれ防止用具と介護技術や創傷ケア、これらも他職種との連携が大切です。

福祉用具を選ぶ人と使う人、さらにフィッティング技術を持つ人など他職種による連携と協力体制が求められます。どのように連携したら良いのか、戸惑いつつ今日に至っているような気がします。

ちょっと連携すれば解決できることです。現場にこんな課題があることも知らないまま、利用者はうまく使えない現実に落胆してしまいます。

これらを解決するのは、福祉用具を取り扱う私達が、その職域を越えて、その使い方をしっかりと学び、上手に使う知識と技術を知っていることで、このことはとても大切なことではないでしょうか。

また、個々の状況に応じた使い方を見出すためにはしばらくの間、お試しをしながらフィッティングをすることも重要なことです。

NPO福祉用具ネットでは、さまざまな専門職の方を対象に研修会を開催していますが、オムツフィッ

ーなど介護職や看護職を対象とした排泄ケアの研修会に作業療法士や理学療法士の方が受講されることがよくあります。在宅で生活されている利用者や介護者を支えている介護チームの一員としては、その垣根を越えた知識は必要なのだと教えられました。オムツは介護職の仕事だから関係ないのではありません。例え、直接のケアをすることはなくても、その現場に居合わせた専門職としてアドバイスのできる知識や技術はとても大切なことだ、と改めて思います。

自動採尿器ヒューマニーの上手な使い方が浸透して、多くの困難事例の方のQOLの向上に繋がることを心から願っています。

ヒューマニーの使い方がわからない方、困っている方は、NPO福祉用具ネット事務局まで気軽にご相談下さい。（0947-42-2286）

TOTO歴史資料館の紹介 8月に福祉住環境コーディネーター協会主催の見学会として実施。



カスリの便器と比較

左(一般用)47cm と右(カスリ用)54cm

北九州市小倉北区の TOTO 本社敷地内にある、TOTO 歴史資料館は 2007 年 3 月にオープン。古い製品やカタログなどの資料が保存されており、大正期～昭和初期の衛生陶器や初代ウォシュレットなど約90年に亘る『TOTOのもの作りの歴史』だけでなく、旧総理大臣官邸などの著名物件で実際に使用された器具を展示し、日本の水まわり器具の変遷を直に確認することができます。カスリの便器とサイズを比較した展示もみられます。福祉用具や住環境整備に関わる私達にとって排泄の歴史を知ることとはとても重要です。こんなに近くにあるのですから、是非一度見学に訪れてみてはいかがでしょうか？



明治時代 中期 小便器



明治時代 初期 便器

在宅介護を振り返ってみたい

～私の13年間～その3（試験外泊への挑戦）

宮若市 佐野 征子

2度の開頭手術後のA病院での入院はリハビリ目的でした。入院時の説明では「3ヶ月の入院予定です。」と院長より説明を受けていました。その時の症状は、寝返りや座位保持もできず、車いすにはベルトでしっかりと固定が必要な状態でした。よだれは流れっぱなし、左上下肢の緊張が強く、すぐに傾いてしまったり、前方に身体がずれてしまう状態でした。また、左空間無視で首も眼球も左に向かない。話しかけにも視線は合わず、言葉で指示しても応じない、寡黙で動きも少なく、著しい意欲障害、嚥下障害もありました。食事から排泄とすべてに全介助が必要な状態でした。24時間では足りないと呼びたくなるくらいの日々でした。息子と2人で付き添いました。

交通事故に関する手続きも、その書類は内容がとても複雑で手間どりました。この頃の私は、心身ともに緊張の連続でパニック状態になりました。体調を崩し、点滴をうけたり整体治療に通ったり、全身が悲鳴をあげていました。

病院近くの海辺のホテルに一泊して、リフレッシュしたり、また、畑や庭いじりしてみたり、買い物にでかけたりしました。それでも、夕方には様子を見に病院に行きました。何しろ、生まれたての赤ちゃんを預けているようなものでしたから、気になって仕方がなかったのです。

入院は、「3ヶ月位」と告げられていましたので、その後のことも考えなくてはなりませんでした。合間をみては次の病院探しに出かけたり、資料などで情報収集もしました。

転院か、在宅かの選択…。在宅は、慣れた環境が意識回復につながる可能性もあり、良いこともあるとの説明でしたので、取り敢えず、一度外泊させて、主人のようすの変化を観察しようと思って実行してみることにしました。正直、私と息子達3人で、こんな重度の状態の主人を在宅で本当に介護ができるのか、身体介護、メンタル面でも、とても不安でした。私は、これまで同居していた主人の両親の介護経験はありましたが、全くその状況は異なっていました。

いよいよ外泊の日がきました。当時では珍しい介護タクシーを利用しました。ドライバーは介護の資格のある慣れた方でしたので、車から部屋までは人力介助で移動してもらいました。主人を後部シートに乗り降りさせる作業は、狭いスペースなので頭をぶつけないように気を配り、汗ダクの大変な介助でした。1回目の外泊はベッドなしでしたが、その時は、それがとても大変なことになるとは考えてもいませんでした。床からの起

き上がり介助は想像外の大仕事でした。次は、初体験の入浴介助でした。新年の初風呂に頑丈な息子2人と私の3人がかりで、ワーワー言いながら、緊張の連続で湯船に浸からせました。当の本人はとても気持ちよさそうでした。しかし、3人とも腰を痛めてしまい、私達はとんでもない正月になりました。本当に大冷汗の連続でした。夜間のオムツ交換でも不眠になりました。

しかし、久しぶりの家族揃っての素晴らしいお正月を迎えることができ、主人もきっと喜んでくれたと自負しております。

その後、5月27日の退院まで、5回の試験外泊を繰り返しました。今考えると、何と無茶で無理なことをしたのだらうと思います。

それからは、病院のリハビリで行なっている起立訓練に励みました。本人の意思がないので全体重をリハビリのスタッフに預けるので、担当者の方は大変な作業だったと思います。院長の助言もあり、私もリハビリ室で時々起立をさせてみました。休み休みしながら2～3回、歯を食いしばりながら必死に挑戦しました。また、少しでも可能性があれば毎日病院に行き、できる限りの思いつくことを試してみました。少しでも元の状態に戻って欲しいとの一念でした。

趣味のゴルフボールやクラブを握らせたり、ペンを持たせて字を書かせたり、テレビはゴルフ、野球、洋画をみせ、音楽を聴かせたり、また、声が小さいので笛を吹かせたり、病院での訓練時間以外には、いつも何かに挑戦させていました。

午前中から夕方まで、食事介助、ベッドから車いすへの移乗、院内の散歩、夕食後の口腔ケアで一日が終了でした。夜の7時すぎにヘトヘトで帰宅する毎日でした。その間、多くの親類、友人の見舞い、励ましに本当にささえられました。（主人の）職場の方とは、私の知らない分野の会話で、主人にはとても刺激になったと思います。本当に感謝するばかりです。

しばらくして私は、ベッド・車いすと福祉車両を購入しました。車は私一人で、どこへでも連れて出かけられるので安心しました。

3月になると院長に退院を考えるようにいわれました。さらに5月に入ると院長より、見込みがないので、どうするか決めること、自宅に戻りデイケアに週に1～2度きたら良いですよと通達されました。もう、『いよいよか』と思うとショックでした。外泊を重ねていく中で、まだとても不安で、本当にこのまま在宅生活で良いものかと考え迷っていました。その気持ちを十分相談するところもなく、家族といっても若い息子達なので、殆んど自分で判断せざるを得ませんでした。なるべく後悔はしたくなかったので本当に悩みました。それに加えて、職場、事故処理などまったく経験のなかった法的な問題、弁護士との話し合いなど、山積されていて心身ともに磨り減っていた時期での大きな決断でした。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その27)

九州日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

期待される P - Wave

P-Waveが新聞で紹介されたのは、日曜日。今日
は一夜空けて月曜日。

大山は、新聞に掲載された反応がきつとあるはずと
胸をときめかせながら、NPO事務局の戸を開けた。

いつもの通りカバンを机の上におき、カーテンを開
けようとする、電話が鳴った。その電話は、

「新聞で見たんですけど・・・」

と前置きをして、在宅介護の実情を詳しく話し始めた。
在宅ではいろんな悩みがある。その電話の人は、その
悩みの中でも「床ずれ」をもっとも困っていた。気付い
たときは、床ずれができてしまっているというものだっ
た。大山は何とか応えたいと思ったが、ようやく人に見
せれる商品サンプルが出来たばかりで、販売できる商
品をまだ持っていなかった。

その日のうちに何本もの同じような問い合わせ電話
があった。予想した通りだった。

大山は、この時初めて

(このテーマを選んでよかった。きつとたくさんの人に
満足してもらえるに違いない)
と心から思った。

作ってよ！みんな待っているんだから。

どうしたら量産できるか？共同開発した生産会社は
販売数量がはっきりしないと量産開始できないという。
生産会社が採算を気にする気持ちもわかるが、これだ
け欲しがっている人がいるのに、応えられないもどか
しさを大山は感じていた。

しかし、やはり納得がいかないと、居てもたってもお
られず大山は、生産会社の開発者の帰山に電話をし
た。

「いったいいつになったら量産するんネ！」

もどかしさを、開発者にぶつけた。

帰山は、

「今、生産ラインを作っちゃうがね。もう少し辛抱して
よ。」

この会話は、これまで何度となく繰り返されてきた。
帰山も急がなくてはいけないことは重々承知している
が、メーカーの組織の中では簡単にはいかない。開発
部門が開発を終わっても製造部門にスムーズに引き
継がないと前に進まないことは、「ささえ」の前号でも紹
介したとおりである。

帰山は、

(当分、開発しながら自分で生産するしかないな・・・)
と腹を決めた。

この生産会社も初めて作る商品である。帰山は、自
分で生産ラインを考え、試行錯誤でモデルラインを作り
上げるしかない。そうすれば大山の期待に応えられる
と決心した。

まずは工場の中の場所取りである。工場の中に無
駄に空いたスペースなどはない。いろんな商品を作る
ラインが所狭しと並んでいる。

帰山は、人気のなくなった夜遅くに、懐中電灯で照ら
しながら空いたスペースを探し回った。

ようやく見つけても、

「そこは、来月から新商品が流れるために開けちよう
とばい。」

とあっさりと断られる。

そんな時、見るに見かねてある製造担当者が、帰山
に声を掛けた。彼は夜遅くまで残業しながら、翌日から
流れる新商品の製造ラインを編成していた。

「ここやったら良いよ。少し片付けたら場所が取れる
んじゃないか？」

「そうか！ここやったら良いな！・・・片づけやったら、
オレに任せちよけ！」

帰山は、にやりと笑った。ようやくみつかった。

彼は、担当者の気が変わらないうちに何とかしようと
さっさと片付け始めた。

翌日、彼はすっきりと空いたスペースにどこからか
長机を運び込んだ。身長の高さほどもあるマットだから
長机は必ず必要だ。しかし彼の考えは、

(空いたスペースのまま置いておくと、また他の誰か
に取られてしまう。なんでもいいから置いとけば・・・)
と戦略的な発想だった。

しかしこの長机は、どこかで見たことが有る。会議室
の机だ。会議室の後ろに余分な机として積み上げられ
ていた。彼はそれに目をつけてこっそりと持ち込んだ
のだった。

手作り道具でモノはできるのか？

次は、生産するときの道具である。

生産道具には、どの商品の生産時でも使う汎用道具
と、マットを作るときにしか使わない専用道具がある。
汎用道具は工場のあちこちから借りれば済むが専用
の道具は、マットにあわせて仕上げなくてははいけない。

場所を確保した彼は、人気のなくなった工場の中で
真夜中の徘徊を始めた。思い描く専用道具に似た道具
を探し求めて。

掘り出し物が見つかったら、翌日はその道具の持ち
主の生産担当者と交渉だ。

「生産が終わったら、元の形にし直して戻すから。」
と相手を納得させて借り回った。しかし彼は生産が終

わっても返す気もなかった。何故なら、彼はこのマットが短期間で生産が終わるとは思っていなかったからだ。

しかし、道具の担当者を納得させるには「返す」と言わないと、ただでは貰えないと考えていた。

こうやって彼が仕上げた生産ラインが下の写真である。当面は大量生産は無いので、限られたスペースを効率よく使う「こじんまりとしたライン」に仕上がった。



組立て機をスペースの中心に構え、周りに必要な部材と道具を並べ、作業者は機の周りを回りながら順番に組み上げ、大きなマットをあちこち動かさずに済むという、この生産会社では全く新しい方式を考え出した。

大きなバックアップ

量産の目途が立ったそんなある日、

「P-Waveが出来上がったらしいですね。もう少し詳しく聞かせてもらえませんか？」

どうもお役所関係の人のようだ。やはり新聞をよんでのことだった。

開発はどうやって進めたのか、今後、NPOはどのように活動するのか、P-Waveの販売はどうするのかなどいろいろ聞きたい様子だった。

商品を開発するには、まずは資金が必要である。これまでも、このP-Waveの開発資金は、福岡県産炭地域振興センターの「産炭地域新産業創造等基金」を活用して進められてきたことはご紹介してきたとおり

である。

NPOは、夢は大きく持っているが、お金を持たない弱い立場であり、こんなNPOにとってはこの基金の活用は、大きな後ろ盾だった。この電話はもっと大きな後ろ盾になるのではと思った。

大山は、

「いつでもいいですよ！」

と間髪入れずに返答した。

この機会は、お金を持たないNPOがどうやって商品開発を進めてきたか、売込のチャンスとばかりに、プレゼンの準備を始めた。

何日かして、事務局に電話の人が訪ねてきた。予備知識があるかのように製品を見ながら、あれこれ質問をし、その日はそのまま帰っていった。

しかし、その後は音沙汰もなく、大山も忘れかけていた。

そんな時、福岡県の県議会でNPOの話が出たとの情報が入った。どんな話があったのか知りたいと思った大山は、どうやって情報を入手すればいいのか悩んだ末に、いつものインターネットを立ち上げキーワード検索した。

その結果は、平成16年9月定例会でのことであることが分かった。

その会議録から関係する部分を転載すると、県議会議員の1人が次のような質問をしていた。

「次に、健康福祉産業の創出についてであります。・・・田川市には福岡県立大学が設置されております。・・・ところで、県立大学の大きなテーマであります福祉の面においては、人間社会学部に障害福祉研究センターが設置され、そこで福祉用具の開発、供給に関する研究や子育て広場、おもちゃとしゃかん・たがわ等の地域支援活動が行われております。特に、福祉用具の面では、これまで介護シャワーを開発したほか、ことしは福岡県産炭地域新産業創造等基金を活用してNPOや民間企業との連携の結果、褥瘡予防マットが開発されております。しかしながら、これらせっかく工夫した商品を開発しても、それを広く普及させていく方法がなかなか見つからないのが実情のようです。これら福祉用具は開発するだけで目的が達成されるものではなく、それを必要とする人々に広く使ってもらわなければ意味がありません。特に、今回の褥瘡予防マットは産炭地域振興のための基金によって生み出されたものであります。この福祉用具の製作や販売が軌道に乗りますよう、県としても支援すべきと思われますが、・・・知事の御所見を賜りたいと思います。」

このための電話だったのか。これは大きなバックアップになるぞ。一番驚いたのは大山本人だった。

平成23年7月～9月までの事務局の動き

■ 開発支援事業等

今年度は、関係企業様との連携事業として、以下のような事業に取り組んでいます。

会員の皆様にもご協力をお願いすることがあると思います。よろしくお願いいたします。

- ①平成23年度医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業にチームとして参加。
- ②平成23年度障害者自立支援機器等開発促進事業、車椅子用膨縮型エアークッションの開発にチームとして参加。
- ③平成23年度 ロボット技術実用化事業に協力団体として参加。

■ 自動採尿器 尿吸引ロボ【ヒューマニー】の使い方についての対応

訪問看護ステーションや福祉用具専門相談員の方からの相談に随時対応しています。

■ 福智町体力測定参加

■ 福祉住環境コーディネーター協会見学会開催

7月9日 夢のみずうみ村 防府デイサービス 防府市
8月6日 TOTO 歴史資料館とショールーム 北九州市
9月10日 いきいき野中デイサービスセンター 久留米市
10月1日 熊本阿蘇ファームランド 熊本県

■ 以下の研修会も終了いたしました。

第4回	7月16日土曜日 14時～16時 アサーション研修 パート2 より良い人間関係を築くためには ～ 職場や他職種とのコミュニケーション ～
第5回	8月27日 13時30分～15時30分 認知症の方への関わり方～心理臨床の視点～
第6回	9月23日 10時～12時（基礎編） 9月23日・24日（技術習得コース） 内容：動作介助とポジショニング技術について 講師 生き活きサポートセンター うえるば高知 代表 下元 佳子 先生

平成23年度今後の研修会

第7回	10月22日 13時30分～15時30分 介護職のためのスキルアップセミナーその③ 排泄ケア ～オムツの上手な当て方について～
第8回	11月26日 13時30分～15時30分 介護職のためのスキルアップセミナーその④ 家事援助で役立つ治療食の調理のポイント
第9回	平成24年2月24日・25日（2日間） オムツフイッター3級研修会 会場は福岡市博多駅近くです。

西日本国際福祉機器展に出展

福祉用具活用セミナー及び介護セミナーを開催！

日程：11月18日（金）から20日（日）3日間

会場：西日本総合展示場新館

NPO福祉用具ネットが主催・共催するセミナーは以下のとおり。

【NPO福祉用具ネットのブース内のセミナー会場】

■11月18日

- ・自動採尿システム尿吸引ロボヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介
- ・摂食・嚥下障害のある方の介護技術その①食事前にしておきたい大切なケアとは！
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

■11月19日

- ・介護技術セミナー起床から就寝までの一日の生活の流れの中での介護技術を考える
- ・自動採尿システム尿吸引ロボヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

■11月20日

- ・自動採尿システム尿吸引ロボヒューマニー男性パッドの紹介
- ・尿吸引ロボ ヒューマニーの上手な活用法と使い方
- ・ロボットスーツHALの紹介・デモンストレーション
- ・摂食・嚥下障害のある方の介護技術その②誤嚥させない上手な食べさせ方とは！
- ・ポジショニングクッションの上手な使い方

【会場内オープンセミナー会場】

11月18日・19日午前10時30分～12時

- ・美容リハビリ～いつまでもきれいでいたいと思う気持ちを大切に！～ 講演とブースで実演予定

11月20日 14時～15時

リフトの使い方と吊り具の選び方

11月19日 13時～14時 14時30分～15時30分

- ・摂食・嚥下障害のある方の介護技術
- その①食事前にしておきたい大切なケアとは！
- その②誤嚥させない上手な食べさせ方とは！

【会議室のセミナー会場】

11月19日・20日午前・午後1日2回

キネステイクス®講座（事前予約制）

会員更新手続きのお願い

■NPO 福祉用具ネット会員の継続手続きのお願い

平成23年度の更新手続きと会費のご入金をお願いしています。引き続いてご支援下さいますようお願いいたします。